

# 謹賀新年!



保護者並びに地域の皆様、よいお年をお迎えのことと拝察致します。今年の干支は「ねずみ」。調べてみたら、子年には、「新しい生命がきざし始める」という意味があるようです。



この意味の如く、この1年が、輝かしい年になりますよう祈念します。「チーム千代田西部小」へのご理解ご協力、今年も宜しくお願ひします。

## 始業式での話 「宮城道雄」

明けましておめでとうございます。

今日も厳しい寒さになりましたが、寒さに負けずに頑張っていきたいと思います。

今からある曲を聴いてもらいます。(曲を流す)

Q. この曲、どこかで聞いたことありますよね。  
そう、お正月によく聴く曲だと思います。「春の海」と言います。

Q. どんな楽器で演奏されているかな?

A. そう、答えは、「琴(箏)」と「尺八」です。

今日は、この曲の作曲者、宮城道雄さんについてお話をしたいと思います。

道雄は、明治27年神戸市に生まれました。生後まもなく目の病気を患い、8歳で失明の宣告を受けました。道雄は、生きるために、琴を学ぶことを決意、生田流に入門。僅か3年後の11歳の時、免許皆伝(大人の人達に「琴を教える良いですよ」という免許)を受け生活の糧を得ることができました。たった3年の間、僅か11歳です。しかも盲目、目が見えません。今ここにいる、5~6年生くらいの時ですよ。どれほど苦しい鍛錬をしたのでしょうかね・・・。驚きです。



実は、こういう話が残っています。雪が積もり桶に氷が張る真冬の寒い日、敢えて自分の手を氷水が入った桶に突っ込み、感覚をなくし、それでも上手く弾けるように何時間も琴の練習に打ち込んだそうです。そして、琴の曲作りにも取組、先ほど皆が聴いた名曲「春の海」を発表。その後、フランスなどで演奏会を開き、国際的にも活躍をしたのでした。

宮城さんの話、どうでしたか?諦めない心が本当に凄かったですね。さて、みなさんは、3学期、どんな目標を立て、その目標を達成するためどんなふうに頑張っていきますか?

## ~新年はまず、勇気のでる話題から~

今年はOlympicイヤー。大いに盛り上がる年になりそうな予感ですね。さて、皆さんは、Olympic 2大会連続のメダリスト、女子マラソンの有森裕子さんをご存じでしょうか。ある教育雑誌に、有森さんの記事が載っていましたのでご紹介しましょう。

【何事にも自信が無かった子ども時代】

マラソンメダリスト=子どもの頃から足が速かった!と思われがちだが、真逆だったそうです。生まれつき股関節脱臼で幼児期は矯正バンドを着けて生活。直ぐ転んで怪我ばかり。そんな時、ある方と巡り会い「持っているものは悪くない。お前が悪く言うから悪くはたらく。自分自身で悪いEnergyにしているだけ。他人と比べて欠点と思うのではなく、自分の武器だと思って一生懸命…。何か一つでいいから諦めず頑張り続けることを探そう」と諭されたそうです。

【初めての一番】

中学時代は、バスケットボール部。1年生の時、たまたま運動会で800メートルを走り1番に。2年、3年では、たまたまと言わせたくないという一心で走り、連続優勝。「諦めないことを自分の武器にする」という初めての体験がそれだったのだそうです。

走ることに希望を見いだした有森さんは、その後、マラソンに転向。その後の活躍は、驚くべきもの。ネガティブの塊だった有森さんが、長距離走というものに出会い、ポジティブという考え方、生き方に大逆転を起こした物語。私達にも大変勇気を与えてくれる話ではないでしょうか。



